2018. 7　No.68

平和記念だより

◆編集・発行：高松市　人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先：高松市松島町一丁目 15 番１号
たかまつミライエ５階
TEL:087-833-2211　FAX:087-833-2244

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

平成 30 年５月２６日（土）、たかまつミライエ１階多目的室において、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第一部「平和を語るつどい」では、香川県原爆被害者の会事務局長 野本 賢さんをお迎えし、約 210 名の参加者を前に、高松空襲の体験をお話していただきました。

野本さんは、戦争を体験した人が高齢化し、戦争の悲惨さを後世へ伝える人が急速に減りつつあることに危機感を抱いておられました。

講演での、りんとしたお姿には、「戦争はしてはいけない。戦争の悲惨さを後世に伝えなければならない。」という強い思いがあふれていました。

参加者の皆さんも、ユーモアも交えた分かりやすいお話に聞き入っていました。

講師：野本 賢さん

第二部では、第 40 回日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞など数々の賞を受賞した、映画「この世界の片隅に」を上映しました。この作品は全国の映画館でたびたび上映されており、参加者の中には「今回がこの作品の５回目の鑑賞になる。」という方もおられました。

参加者からは、「当時のつらい出来事やどうしようもない現実を受け入れざるをえない主人公の姿が、ほのぼのとした映像で描き出され、胸をうたれた。」など、多くの感動の言葉をいただきました。

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭　参加者の感想

空襲体験談は、大変な時代であったにもかかわらず、野本さんのお力で悲しい気分にならず、聞くことができました。映画は楽しく鑑賞させていただきました。
（40～50 代・女性）

娘たちを連れて参加しました。昔の暮らしや戦争の体験が想像できる話や、映画を観られてとてもよかったです。
（40～50 代・女性）

私が小学生だった時、戦争を体験した祖父から戦争の話を聞いてくるようにという宿題がありました。
私は祖父につらい思いをさせてしまうと思い、聞くことができませんでした。今日は小学 6 年の子どもが授業で戦争を習うので行きたいと言ったので、連れてきました。親子で勉強になりました。
（40～50 代・女性）

戦争について知らないので、現在もなお元気な方が色々語っていると、現実味を感じた。
（50～60 代・男性）

苦しい日々と戦いながら、みんな家族を待ちながら生きていたと知り、とってもつらい思いをしたことが分かった。
（小学生・女児）

最近、呉が話題になったのはこの映画が元になっていると聞き、足を運びました。
声高に反戦を訴える内容ではないが、説得力のある映画でした。
広島気象台に勤めていた頃、気象レーダーを運用していたので、呉、広島ともに身近に感じて見入ってしまいました。
（50～60 代・男性）

娘たちを連れて参加しました。映画は呉の空襲の様子がよくわかりました。昔の暮らしや戦争の体験が想像できる話や映画をみられてとてもよかったです。
（40～50 代・女性）

非常に良かった。涙が出た。戦争ほどバカなものはない。
（70 才以上・女性）

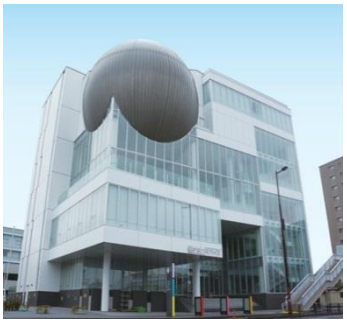
戦争という非日常の状況においても日常生活があることが描かれて（笑ったり困ったり何気ない日常）良かったです。
（40～50 代・男性）

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

夏の行事予定

６月

高松空襲写真展



【日　時】平成３０年６月29日(金)～７月９日(月)
【場　所】高松市平和記念館　映像学習室
（たかまつミライエ５階）
【内　容】高松空襲の被災写真・パネル・絵画

７月

高松市戦争遺品展

【日　時】平成３０年７月19日（木）～２５日（水）
【場　所】瓦町 FLAG２階コンコース
【内　容】高松空襲などに関する写真・パネル・当時の生活用品等の展示

８月

戦争・原爆被災展
（共催：高松市・長崎市　協力：（公財）長崎平和推進協会）

【日　時】平成３０年８月２日（木）～８日（水）
【場　所】市民交流プラザ　IKŌDE 瓦町展示コーナー
（常磐町１-３-１　瓦町 FLAG8 階）
【内　容】原爆被災物・原爆被災写真パネル等の展示

夏休み親子平和学習教室
「平和をつなぐ、平和をつくる」
（主催：高松市平和を願う市民団体協議会）

【日　時】平成３０年８月１日（水）～３日（金）
各日午前１０時から午前１１時３０分まで
【場　所】高松市男女共同参画センター第３学習研修室（たかまつミライエ６階）
【内　容】
８月１日　戦前、日米親善のために贈られた青い目の人形のその後
８月２日　高松空襲で被災した家族の、今なお続く苦しい思い
８月３日　高松空襲体験者の平和への想い
【対象者】小・中学生（親子参加も可）
【定　員】３０人
【申込方法】　高松市平和記念館まで電話にて　TEL（087）833-2211

戦時用語解説 57　子どもの教育（国民学校）

学校は、子どもの戦争教育の主な役割を担った。昭和１６年（１９４１年）、尋常小学校は国民学校へ改組された。修業年限は従来の６年間から８年間へと延長され、今の小学校にあたる初等科６年と高等科２年になった。授業内容も変更され、修身や武道の授業が始まり、科学教育が重視されるようになった。学校では工作の時間に模型飛行機作りや落下傘作りがはやった。子どもたちの創意工夫や柔軟な発想は、戦争遂行のための実用的なアイデアとして注目された。

子どもたちは授業、毎日の日課、行事などを通し、国と天皇のために命をささげるように指導された。例えば毎月１日「興亜奉公日」には、教師に引率された子どもたちが最寄りの神社に向かい、皇居の方に向かって拝んだ。昭和１７年（１９４２年）からは、太平洋戦争を記念して毎月８日が「大詔奉戴日」と定められ、天皇からの正式な宣戦布告文である「詔書奉読式」を行い、日の丸を掲げ、必勝を祈願した。戦時下における子どもの生活は、理想の「少国民」となるように教育されていった。

※　参考文献　「資料が語る戦時下のくらし」羽島 知之

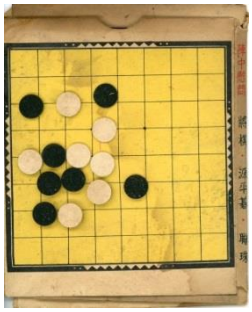
収蔵品紹介58　陣中慰問（将棋・源平碁・聯珠）≪最近の収蔵品より≫

提供者　多田　義子　様

戦時中、戦地にある将兵などを慰め、士気を鼓舞するために、布袋に色々な物を入れて送った。

慰問袋の中身は、手紙や絵ハガキ、缶詰、砂糖、お菓子などの食べ物や衣類、剃刀、色鉛筆のような実用品も含まれた。さらに、知恵の輪、紙将棋などのゲーム、小説や最近の新聞、薬、煙草などが喜ばれた。

戦局が悪化し、物資不足になると、袋の中に入れるものがなくなり、慰問帳が慰問袋の代わりになった。女学生などが布や色紙などを利用して美しい小冊子を作り、そこに写真を貼ったり、絵や文章を入れたりした。



編集メモ

長崎市と共催（協力：（公財）長崎平和推進協会）で、香川県内で初めて、「戦争・原爆被災展」（夏の行事予定欄を参照）を開催します。折角の機会ですので、ことでん瓦町駅周辺へお越しの際は、会場の市民交流プラザ IKÔDE 瓦町展示コーナーにもぜひお寄りください。

高松市平和記念館　開館時間：９時～17 時　休館日：毎週火曜日　入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html